

第38号
2017年 12月 1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



「小さな命に寄り添い仕える働きを」

神戸真生塾理事長 日本基督教団神戸教会牧師 菅根 信彦



長らく神戸真生塾のために誠心誠意、仕え歩まれてきた富川直彦理事長の突然の逝去を受けて、去る6月17日の新理事会において理事長に就任いたしました。神戸真生塾と所縁の深い日本基督教団神戸教会の牧師の職との兼務になります。創立より127周年を迎える神戸真生塾の歴史とその使命の重さ、社会福祉の領域でこれまで積み重ねられてきた働きに敬意を抱きながら、与えられた期間、精一杯に仕えていきたいと思っています。力弱き者ですのでこれまで以上の皆様からのお支えをお願い申し上げます。

神戸真生塾の歴史は、1890年（明治23年）神戸のキリスト教会の青年たちによって、当時米の不作と米価の高騰

のため生活の不安を抱える人々を支えることを目的とした「神戸貧民救済義会」の設立に源流をみる事ができます。さらに、その3年後の1893年（明治26年）に現在の神戸真生塾の前身である「神戸孤児院」が開設されます。親を亡くした子ども、捨てられた子ども、生活困窮のため教育を受けられない子どもを引き取り、一緒に生活をする養護が始まります。その指導的役割をはたしたのが、神戸真生塾の初代の理事長・院長の矢野毅（やごろ）さん。妻の矢野はつさんたちでした。飢饉に見舞われた東北地方から子どもを受け入れたこともありました。そして、矢野夫妻の意志を継いだ



のが長女の水谷愛子（1899～1984年）さんでした。さらに、その意志は、歴代の理事長・施設長に受け継がれていきました。社会福祉の制度が整っていない時代から、子どもたちの生活に心を配り、育児・養育に専念してきた施設でもありました。そして、何よりもその背後には、キリスト教の「愛の精神」がありました。

この「愛の精神」は、2000年前、幼子を招き祝福したイエスの姿と、そのイエスの教えから由来するものであり、また、働かぬ私たちを、「無償の愛」で包んでくださったという出来事から来るものです。そして、その「愛の精神」は、今なお、この神戸真生塾に脈々と続き、歴代の理事長、院長、各施設長のみならず、職員、指導員、保育士として働く人々によって受け継がれ、広がりをもって展開しています。

現在、神戸真生塾は、乳児院、児童養護施設、児童家庭支援センター、真生きらきら保育園、小児科診療所・愛こどもクリニック、さらに、児童自立生活



援助事業の運営の働きも担っています。現場の責任を負っている富川和彦施設長が日ごろ語っているように、お預かりしている子どもたちだけでなく、地域の子どもたちを含めた養育環境づくりを使命として、学校や関係機関の協力を得て、「地域児童センター」を目指してこれからも歩んでいきたいと思っています。スタッフ一同、心と祈りを合わせて子どもたちに寄り添い仕えていきたいと願っています。皆様からのますますの支援助・ご協力を願ってやみません。

納涼大会を終えて

残暑が厳しい中、8月26日土曜日に今年も保護者の方々や地域の方々、各関係機関の方々、多くの来場者を迎え神戸真生塾の納涼大会を開催することができました。

昨年は建物の外壁塗装工事の為、例年より規模を縮小して実施となりましたが、今年も例年通り中庭を会場として盛大に行うことができ職員一同大変嬉しく思います。

今年の司会は中学1年生の男児が務めました。大勢の方々の前に立つという経験が少ない中、とても緊張しておりましてが立派に進行してくれたと思います。

ステージ発表では乳児院の子ども達・児童養護の子どもの達によるかわいらしい盆踊りからスタートしました。また地域のダンスグループ『Team KDCJ』の皆さんが魅力的で格好いいステージを披露してくださり華をそえてくれました。他にも高校3年生男子とご友人による『ラジオバイアーズ』が「夢の中へ」「YMC A」の二曲を披露し、会場が一段と盛り上がりました。また児童養護の子ども達が〇×ゲームを行い、クイズの内容や景品を試行錯誤しながら作り上げてくれた姿は頼もしく感じました。子ども達自身も達成感を感じたことでしょう。多くの子ども達も参加し、活気あふれる舞台となりました。

楽しいステージ発表が行われている中、模擬店ではかき氷・たこ焼き・フライドポテト・牛肉炒め・お宝市などを出店しました。子ども達が嬉しそうに購入したり、食べながら楽しんでいる姿が印象的でした。また神戸真生塾の退所児も遊びに来てくれており、元気な姿を見ることができて嬉しく思うのと同時に、これからはいつでも遊びに来て安心できる場所であるよう子ども達を温かく支えていきたいと実感致しました。

最後になりましたが、多くの方々への感謝を伝えるとともに、皆さまの支えの上で子ども達は日々元気に健やかに育っております。今後とも神戸真生塾の子ども達のことを温かく見守って頂きたいと思っております。本当にありがとうございました。

(児童養護施設 保育士 菊池なつき)



平成29年度の神戸真生塾のお祭りが天候にも恵まれ、真新しい提灯がまばゆく、たくさんのお客様にご来場いただき開催されました。乳児院の子ども達と養護の幼児さん達の混合チームが、晴れやかなステージで盆踊りの披露からスタートします。大勢のお客さんに圧倒されて緊張のあまり動きが止まってしまいう子ども、まだまだ年令が小さく、戸惑いを見せ泣きそうになる子ども、養護の幼児さんと共に一生懸命楽しんで踊る子ども。どの子ども達もみな、それぞれに毎日練習を積み重ねてきました。その頑張り、微笑ましいものがありました。浴衣や甚平を着て「かわいいね」と言ってもらい喜ぶ姿も、大好きなたこ焼きをお口一杯にほおばって食べる姿も普段見ることのない子ども達のあどけない笑顔に、係として準備してきた苦労が報われる思いのひとつでした。日頃お世話になっている方々、保護者の方たちとのふれあひもまた、子ども達にとって大切な夏の思い出となりました。

(乳児院 主任保育士 藤井寿子)



琵琶湖キャンプ

今年の夏も恒例の行事「琵琶湖キャンプ」に乳児院から子どもと職員の参加もあり、合わせて67名で二泊三日を過ごしてきました。

行く前から子どもたちは「もう少してキャンプやねー」ととても楽しみにしていましたし、キャンプ当日はみんな笑顔でバスに乗る姿を見ていて、私はこのキャンプが子どもたちにとって素敵な時間となるように願うと同時に、気が引き締まりました。

着いてからは琵琶湖に入っと思いつき泳いだり、琵琶湖に流れ込んでいる川では魚や亀を



た。キャンプファイヤーでは小学校のお姉ちゃんたちがゲームをしてくれました。

また今年は小学生が寝てから中高生が集まり、チーム戦でゲームをしたり、変わった花火をしたり、その後お茶会をしました。始めての試みでしたが、中高生で夜の特別な時間を過ごすことができ良い時間となりました。

他にも沢山の出来事と思い出ができました。少し雨が降った時もありましたが、大きな怪我もなく、無事にすべてのプログラムを行うことができました。

いつもの生活から離れ自然の中からの体験から得られるものから一人一人の成長につながっているかと思えます。

(保育士 越智七美穂)

捕まえたり、釣りをしていた子は大きな魚を釣って皆に見せてくれていました。湖だけでなく、茂みなどでは網とかごを嬉しそうに持ち、走り回って虫を捕まえたたり、追いかけてあいをしたり、木の周りで手をつないでぐるぐる回ったりと、思い思いに遊びを楽しんでおり、微笑ましい姿が沢山ありました。

夜のプログラムのバーベキューでは中高生のお兄ちゃんたちも手伝ってくれ、みんなが沢山食べる事の出来るように焼いてくれました。肝試しでは例年とは少し違った内容で怖がりながらもとても楽しんでいま



ぶどう狩り

夏の暑さが残る9月9日に、乳児院と児童養護施設との交流の一環として、加古川市にある『みとろ観光果樹園』へぶどう狩りに行きました。

乳児院から6名の子どもたち、児童養護施設からは2名の中学生たちが参加しました。

車の中では、乳児院の職員に昨年参加した時の様子や中学校での生活のこと、自分たちの部屋の様子などをたくさん話し、話が尽きることはありませんでした。

ぶどう園に着きハサミとバケツを借りて、大きくておいしそうなぶどうが実っている場所をみんなで見つけました。ぶどうは袋に入っているため、袋を持ち上げて重たいものを選びます。

枝をハサミで切り取り袋を外すと、たくさん大きな粒が付いていておいしそう！バケツの水で洗ってから、みんなでおいしくいただきました。食べても食べても減らない大きなぶどう。

乳児院の子どもたちが食べきれない分は、中学生たちが頑張っ全部食べてくれました。おいしいぶどうをたくさん食

べた後は、近くにある芝滑りが出来る広場に移動しました。中学生の2人も乳児院の子どもたちも、飽きることなく何度も何度も芝滑りを楽しみました。

最初はぶどう狩りの参加を迷っていた中学生の2人でしたが、ぶどう狩りの現場ではかわいい乳児院の子どもたちの遊び相手になったりたくさん荷物や積極的に運んでくれたりなど、お姉さんらしい姿がとても多く見られました。同じ敷地内にある乳児院と児童養護施設ですが、合同で外出する機会はありません。

今回のように一緒に出かけることによって、乳児院から移行してきた児童養護施設の子どもたちは「私も乳児院ではこんなに可愛がってくれたんだ」と改めて実感したり、「乳児院の子どもと一緒に過ごすことがとても楽しかった」というお姉さんらしい気持ちが見えたりするようです。

今後も、このような外出を企画していきたいです。

(保育士 藤原麻衣子)



自分を信じるカントロント交流会に参加して

保育士 金岡 美衣

トロント交流会スタッフへのお話しを頂いた時、前回参加した子ども達が、交流会後に大きく成長した姿を見ていた私は、その成長の過程をぜひ間近で感じたいと思い、英語が話せないにも関わらず「参加します！」と即答しました。

『高校生なのだから自分自身と向き合い、自分で納得いく進路を考えなさい』と施設退所前の子どもに何度も伝えてきましたが、私自身が今までどう生きてきてこれからどう生きていくのか、自身に問いかけた事があつたのか、交流会の事前研修に参加した時に考えさせられました。自分と向き合った事の無い私が、子ども達と向き合う事が出来るのか。保育士として何年も子ども達と生活してきたにも関わらず、自分に自信がなくなりました。しかし私が自信を取り戻せたのは、太一君の大きな成長でした。

がうまく出来ない私達を、愛情溢れる家庭に受け入れて下さり『あなたは存在するだけで素晴らしい大切な人』と何度も言ってくれるハグをしてくれました。日本でも私たちは同じ気持ちで子ども達と生活していますが、言葉で伝える機会が少ない為、愛情溢れるストレートな言葉は心に残りました。

アドボカシー事務所のスタッフは、交流会の目的である権利について、自発的に学べるワークを用意して下さいました。始めの頃は口の重かった太一君も『自信を持って自分を信じよう』という言葉は何度も聞く事で確実に自信をつけ、全てのワーク終了後には自分の意見を堂々と主張できるようになりました。

太一君はオンタリオ州議事堂での公聴会で立派に議長を務め、自らの意見を堂々と主張する姿に本当に胸を打たれました。公聴会では私も自分の考えを主張しましたが、高校生以上に不安げな私を、アドボカシー事務所の所長がサポートしてくれました。

子ども達は皆、素晴らしい能力と大きな可能性を内に秘めています。しかし子どもがその能力を発揮しきれないのは、大人が子どもの権利について理解していないばかりか、子どもの権利を共に考え話し合おうとする子ども達を、快く思わない大人が存在するからです。トロント交流会参加前の私にもその考えがあつたかもしれませんが、子どもに寄り添い子どもの声を直接聞く保育士だからこそ子どもと共に権利を学び、子どもの権利を多くの人に広めるべきだと考えるようになりました。

素晴らしい方達との出会いと『自信を持って自分を信じよう』という言葉が太一君と私を支え、自分自身が持っていた能力以上の大きな力を発揮して様々な事を学ぶ事ができたのだと思います。子ども達は人生を自分で切り拓く大きな力を身につけましたが、実際に生活する中でその力を信じられなくなる事があると思います。その時はトロントの素晴らしい思い出『自信を持って自分を信じよう』という

言葉を思い出し、自ら一步を踏み出して欲しいと願っています。そして私は自らの足で歩き出す子ども達を支えられる保育士でありたいと思います。



宗太一

初めて日本以外の地を踏んだ。カナダのお札は、ほんのりメープルの香りがした。ここで自分は、まだ想像もできない素晴らしい体験ができることを確信した。実際、自分の常識が百八十度変わった。食生活・歴史・宗教、そして、肌の色も違うカナダはなぜか居心地がとても良かった。だから、まだ僕の旅はこれから、必ずもう一度カナダを訪れると決めた。その時が来るまでに、日本が世界に誇れる

何かを見つけたと思う。僕がトロント交流会に行つて学んだことは、周りの人に助けられて自分が生きているんだなということ。この交流会も、ほとんど寄付で成り立っているそうです。それに施設もお金を出してくれたというので、本当に感謝しています。この広報誌を読んで下さっている人たちの中にも支援して下さいた人がいるのかもしれない。本当にありがとうございます。



おりがとびにまつまじった

寄付並びに児童招待で芳名

敬称略・五十音順

(二〇一七年六月一日〜二〇一七年九月三十一日)

寄付金

- 岩村良子
- 小澤医院 南和光
- 大社貴子
- 家庭養護促進協会
- 数田紀久子
- きむらたくやと
- 愉快な仲間たち
- 代表 今田泰明
- 神戸市立山の手小学校
- 神戸松蔭女子学院大学
- 神戸親和女子大学 藤原伸夫
- 学生ボランティアカフェ
- リースヒュン
- (有) 周和取締役 野村玲加
- 住元・薬師川・西川・鶴田
- 住元義則・淳子
- 橋本明
- 細見英信
- 本城智子
- 中村悦子
- 中村淳子
- 藤井祥子
- 綿谷栄子

寄付物品

- 株式会社いーぼる
- 大本理恵
- オカモリ商会
- 大社貴子
- 協同食品(株)
- 神戸屋精肉店
- 神戸ポトワイズ
- メンズクラブ
- コストコホールセール
- ジャパン(株)
- こちび商店 松本美鈴
- コンビニエクス(株)
- 江指
- (株) 三宝
- 島田千里
- 神果神戸青果(株)
- 清風幼稚園
- (株) チュチュアンナ
- 日本サクドリー
- 日本レコード協会
- 板東
- 広瀬俊道
- ファイブイントラ
- ロジステイクス(株)

児童招待行事等

- ファイリップモリスジャパン
- 福原商店
- 豊興運輸
- まほろば
- 元町商店街
- 吉田商店
- 吉田真弓

- 大阪ガス(株)
- 熊野神社
- 神戸元町商店街連合会
- ゴールドマン・サックス
- 証券(株)
- どんぐりコールドミュージック
- スクール
- ウィッセル神戸



子どものつづやき

★今日は待ちにまった納涼大会。「早く宝塚行きたいわ」とK君。一緒に聞いていたY君に「お宝市やる?」とつっこまれ、とても恥ずかしそうにしました。(Kくん 8歳)

★保育士がコンタクトをしようとする必ず見に来て来るY君。「今日もお姉ちゃん(保育士)、コンバクト入れるん?」と「何を入れるって?」と聞き直しても「コンバクト」と答えるY君。中学生のAちゃんに「コンタクトやで!」と言われるも、「違うで。コンバクトやで。なっ、お姉ちゃん(保育士)」と。(Yくん 9歳)

★夕方、眠そうにしていたHくんに「お風呂入って、目を覚まそうか」と声を掛けると、「えいいややあ。」「どうして?」と聞くと、「だって、お風呂が気持ち良くてお布団みたいやもん」だって。(Hくん 4歳)

★前号の続き:イルカに憧れるも、魚が苦手なRちゃんは、イルカの主食は魚であることを知り、イルカになることを断念。ところが最近、段々と魚への苦手意識が和らいできたRちゃん「やっぱりイルカになる!魚食べるから!!どうやったら、イルカになれるん?!」
:ええっと、どうすればイルカになれるんだらうね...。(Rちゃん 6歳)

★Hくんが歯磨き粉を歯ブラシにつけようとしたりけど、出てこない。すると「魔法使わわ!」と言ってチューブを振ったら、出てきた!嬉しそうに「魔法使えたわわ!」と言って歯磨きをしました。(Hくん 4歳)



《乳児院 真生乳児院》

すくすくおたより〜子どもの日常生活より〜

きりんクラス

お庭に出ると虫探しが大好きなN君「どこにいるかな?」と探していると大きなバッタを発見「えい!」と言いながらとても大きな殿様バッタを捕まえても嬉しそうに一言「お子様バッタ捕まえたで!!」と言っていました。

(富澤 美香)



きりんクラス

9月はRSウイルスが流行り子ども達は部屋移動がありました。2週間ほどでやっと落ち着き元の部屋にA君が戻ってくると「A君おかえりー!」とA君を囲み3名の同室の子ども達が笑顔で出迎えていました。A君もつられてニッコリしていました。

(中山 麻美)

たんぼぼクラス

「フルーチェ作ろうか!」と言うと、午睡後で寝起きたた子ども達の顔がぱっと輝きます。

「いち、に、さん」と数を数え、小さいお友達から順番に泡だて器で混ぜます。あつという間に空っぽになったフルーチェ。最後に素敵な笑顔が残りました。

(大伴 鞠奈)

ちゅっりっぶクラス

チューリップ部屋には一歳から四歳の男女5名がいます。時には玩具の取り合いなどで喧嘩をする事もありますが、個々のできない所も子ども同士で助け合う姿も見られます。お互いを思いやるこゝとが出来ると優しい心が育ってきていることを嬉しく思います。

(豊田 恵美)



ひまわりクラス

私が「足が痛い」と叫ぶと言葉を発しないA君(1歳児)が寄ってきて「大丈夫?」という表情で私の頭を撫でる。Bちゃん(0歳児)が泣いているとCちゃん(3歳児)が「Cちゃんがいるから大丈夫よ」と声をかけている。こんなやさしい姿に接していると暖かい気持ちで一杯になる。そして子どもたちから学ぶことが多い毎日である。

(小笹 恭子)



ひよこクラス

ひよこクラスのAちゃん、最近ではあうあうとお話をするようになりました。そのお世話をする年長児の子ども達、優しい声を掛けちゃきちゃきと何でもしてくれます。居室では毎日ゆったりと穏やかな時間が流れています。

(石津 加奈子)



《保育所 真生きりきり保育園》

九月の園だより

園長 上杉 徹

平和が脅かされるようなニュースが頻りに流れています。幸いにもこの国は戦争を止めて72年が過ぎました。直接的な戦争や紛争に巻き込まれることはなかったのですが、いつ、どんな時に争いに巻き込まれてしまうか分からない時代になりました。我々大人は今のこの時に何が

できるのか。何をすべきかを考えていかないといけません。暗くなりがちではありませんが、保育園では子どもたちの笑顔、元気な姿を守り続けていくこと、将来にわたっての生きる力の源になるような経験が必要かと考えます。

と。」を意識して、その都度、立ち止まって考えてから提供することです。将来にわたって生きる力を育むために何を伝え、学んでほしいかを考えながら良い保育が提供できるようにしっかりと計画を立てて日々の活動に取り組んでいきたいと思っています。

子どもの様子
〜九月の園だよりから〜

さくらんぼ・ももぐみ

保育園での8月と言えば、水あそびがあります。夏だからこそ楽しめるあそびの一つで小さいビニールプールやタライに入った水(ちよつとぬる目)にしています。容器などを使って、足などにかけてみたり、バケツに移したりと外側からあそぶ日や、ビニールプールの中に入っているプールあそびを楽しみました。プールの中に入ると少し怖がる子どももいますが、回数を重ねると平気になる子どももいて、それぞれのペースであそんでくれています。

今年の8月の上旬は発熱などでお休みをしたり、水あそびが出来ない子どもも

さんいました。プールは8月だけですが、暑さは続くと思いますので水を使ったあそびをプールが終わった後も行い楽しんでくれたらいいなと思っています。プールのある日の準備体操としてだけでなく、毎日の過ごしの中で『はとぼっほたいそ〜う』を行っています。一つ前の体操の時もそうでしたが、最初は見ている子どもたちだけでしたが、(見て楽しんでくれるのだと思います)最近ではももぐみの子も一緒に体操する子が増えてきました。手の動かし方も上手になっていて、曲にあわせていることが伝わってきます。さくらんぼの子どもたちはももぐみの子や保育士の姿を見たり、一緒に手を振って真似をする姿を見せてくれたりします。どちらも、ほんとうにかわいいなと思っています。ももぐみは玩具の遊び方も変わってきました。ブロックや積木を重ねたりつなげたりして、自分なりに何かを作ろうとしています。お友だちが作っているのを見て、自分も作りたいと寄っていき、欲しくてつい取ってしまうことがありますが、それぞれの気持ちによりそいながら、自分のあそびが楽しめるように関わっていきたいと思います。

廣瀬 加恵・青木 梨花・岡村 孝美

(0歳・1歳児クラス担任)

みかんぐみ

せみの鳴き声が元気に響き、水あそびやプールのあそびが心地よく楽しい8月でした。厳しい暑さに体調を崩しやすい時期ではありますが、毎日パワフルなみ

かんぐみの子どもたちです。朝の身支度(排泄→シール貼り→水分補給)は慣れたこと、見通しをもって過ごす様子がうかがえるようになりました。こひつじノートを自ら取りに行ったり、友だちの分を持って声をかけに行ったりする子どもの姿もあり、自分でしようとする気持ちや友だちへの関心が高まっています。食事の場面では今まで気にしていなかった席を、〇〇ちゃんの隣がいい!と選んだり、隣〜隣〜と一緒に友だちと顔を見合わせ喜んでいたりします。その反面、いけないとわかっていることも同じようにしたいため、ついつい真似をした結果、注意されてしまう...ということも多くなっています。子どもたちの成長を感じ、うれしく思っています。

小國 明日香・西村 和子
(2歳児クラス担任)



子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時~午後6時(緊急の場合は夜間も可)
神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)
Homepage <http://www.rotary-kodomoioie.org/>
facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioie>



子育てに困ったら
先ず電話相談!

子ども家庭支援センターロータリー子どもの家

海遊び

神戸真生塾 子ども家庭支援センター 山本まよ

2017年8月2日(水) 神戸真生塾 周辺の年長から小学生の子ども達39名と共に、淡路島室津海水浴場で海遊びを行いました。海遊びは当センターの野外活動プログラムの中でも人気のプログラムで、キャンセル待ちが多数出る程です。

当日は、当センターのスタッフだけでなく、神戸ライフセービングクラブのライフセーバーや大学生リーダー等の15名の大人が見守る中、子ども達は遠くの浮島まで泳いだり、カヌーに乗ったり、海の生物を捕まえたり、海で思う存分楽しみました。また、昼食後にはスイカ割りやビーチフラッグを行い、限られた時間の中で盛りだくさんなプログラムとなりました。海

が苦手であった子どもも、ライフセーバーから海での安全な遊び方や溺れた時の対処法を学んだり、リーダーと一緒に少し



づつ海に慣れたりすることで、帰り渋りをする程に海を好きになって楽しんでいました。

当センターは、あらゆる家庭の子ども達に開かれたプログラムを目指し、全ての子ども達が安心・安全な環境中、伸び伸びと楽しめるよう保育士や心理士などの専門スタッフが配慮する中で活動しています。

今回の海遊びは、「子どもゆめ基金」様から助成をいただき、「株式会社エーワン」様よりご寄贈いただいた魚とり網を活用させていただきました。誠にありがとうございました。

神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 森本 みずき (真生きらきら保育園 主任保育士)
- 網谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
- 苦情解決責任者 富川 和彦 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
- 上杉 徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家施設長)
- 第三者委員 森光 規之 (当法人 監事)
- 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 平成29年 6月から9月末まで 1件

編集後記

実りの秋を迎えました。今月は教会では収穫感謝の礼拝が守られます。夏から秋にかけての行事の報告から、子どもたちの様子をお届けしました。琵琶湖キャンプや納涼会、海外での体験プログラム、ぶどう狩りなどを通して子どもたちが日々成長している姿が読み取ることができるとおもいます。6月に富川直彦前理事長の逝去から菅根信彦新理事長の交代と大きな出来事もありましたが、神様のご計画の下、神戸真生塾も新しい歩みを始めます。

(上杉 徹)